

研究会「提言」の概説

東京都立大学都市環境学部観光科学科

清水 哲夫

「観光と地域交通に関する研究会」座長代理

JTTRI Report 202002

観光と地域交通に関する研究会 報告書
令和2年7月

観光と地域交通

Japan Transport and Tourism Research Institute

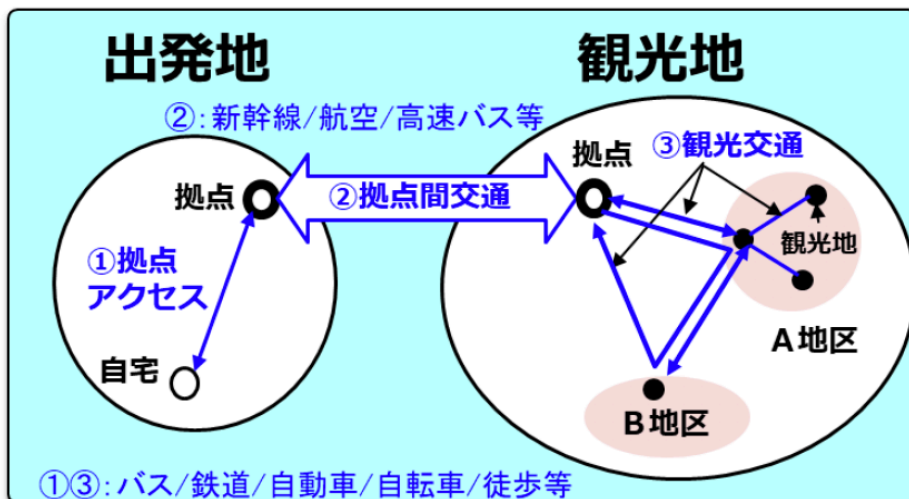


一般財団法人 運輸総合研究所

観光対応の地域交通を巡る問題意識

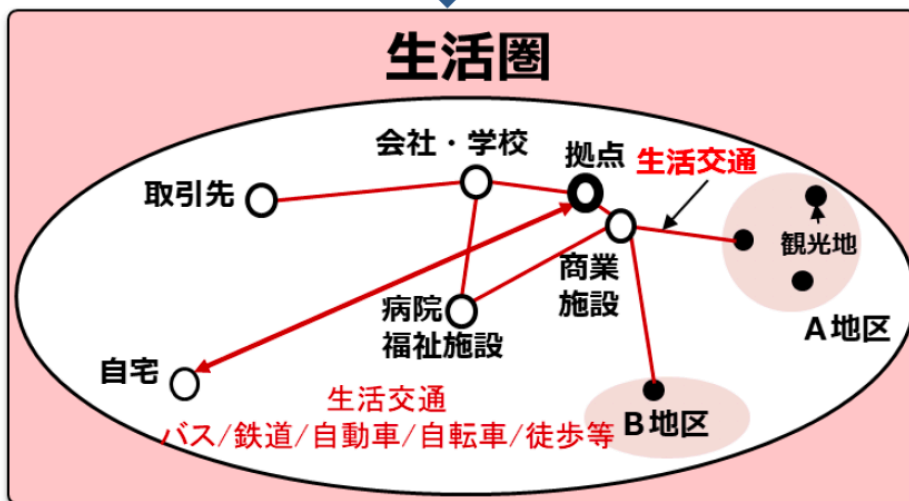
1. 観光需要は地域公共交通事業の**収益拡大**に貢献できるか？
 - インバウンド，シニア層，クルマ離れした若者などの**利用ニーズ増加**への期待
 - 訪問先アクティビティによっては，クルマ利用者でも公共交通等を使うほうが便利なケース？
2. 交通手段自体を資源や**魅力**にできないか？
 - レストラン列車，水陸両用バスなどの登場
 - 車両や関連施設の統一的デザイン
3. 交通を巡る新たなサービスや技術の**イノベーション**を用いて地域観光を活性化できるか？
 - 観光MaaS，シェアビジネス，自動運転，パーソナルモビリティへの期待

観光交通と生活交通の違い



視点	観光交通の特徴
目的	観光地の訪問、本源需要の場合あり
時間帯	休日（季節、特定日）の昼間が多い
利用者	地元以外の利用者が多い（海外も） 初めての利用者も一定数いる
ルート	観光地へのルートや効率的な乗継が 確保されていない場合あり
料金	高くても利用する傾向

観光交通と生活交通はネットワークや特徴が必ずしも一致しない



視点	生活交通の特徴
目的	通勤・通学、通院、買物等の日常の利用
時間帯	平日朝～夕が多い（目的により異なる）
利用者	生活圏の住民の利用が多い 普段から利用している人が多い
ルート	地域住民の生活上必要なルート 人口減少等で公共交通の存続危機あり
料金	高いと利用しない傾向

提言に向けた視点と指摘された問題(1)

1. 観光地側の視点

- DMOにモビリティ運営や関わり方のノウハウがない
- 観光客対応施策が地域住民や事業者に理解されない
- 交通・観光一体型サービスで稼ぐ仕組みが必要である
- 観光地のビジョンがなく交通投資につながらない

2. 交通サービスの需要側(観光客)の視点

- 観光客が満足する移動手段を導入する必要がある
- 古い公共交通車両のリノベーションが必要である
- 観光客と住民の公共交通動線が重なっていない
- プライシングの柔軟性が必要である

提言に向けた視点と指摘された問題(2)

3. 交通サービスの供給側の視点

- 観光行動に配慮しないタイムテーブルとなっている
- ターミナルの案内誘導や地図が不親切である
- データのオープン化が必要である
- 施設側に地域の公共交通事業を活かす意識が必要である
- MaaS実現のために交通事業者の連携が必要である
- MaaSアプリケーションのグローバル対応が必要である
- 通年・安定的な需要が期待できない

4. 計画や規制などの政策・制度の視点

- 地域公共交通計画に観光の視点を入れる必要がある
- 公共交通計画の範囲が観光地のそれと整合しない
- 自家用有償旅客輸送の規制緩和や運用改善が必要である
- 行政職員に公共交通を体系的に学んだ人材が少ない

提言の骨格

1. 観光地側の視点

- (1) **DMO**や地方公共団体観光部局の役割
- (2) **運営主体**（地方公共団体，交通事業者，観光関係者等）のあり方

2. 交通サービスの**需要側**（観光客）の視点

- (1) 現在の交通サービスでは対応できていない需要や**創出が見込める需要**への対応
- (2) **本源需要**としての地域交通への対応

3. 交通サービスの**供給側**の視点

- (1) 交通データ収集やユーザーへのわかりやすい**情報提供**のあり方
- (2) 地域の輸送サービス資源の**活用**
- (3) **新しいモビリティサービス**や**MaaS**への課題と期待

4. 計画や規制などの**政策・制度**の視点

- (1) 観光の視点から見た地域公共交通に関する**計画**の対応
- (2) 政策や法律上の課題（**法令**，**規制**，**運用**等）への対応

提言からの抜粋(1)

1. 観光地側の視点

- 観光地としての**集客戦略**を地域交通の行政・事業者と共有すべき
- 地方公共団体交通部局は観光関係者を交通の諸計画の**協議会構成メンバー**として位置づけるべき
- 外部有識者のサポートによるもとで、行政内で**専門性の高い人材**を育成すべき

2. 交通サービスの**需要側**（観光客）の視点

- 観光施設と交通を**パッケージ化**した料金導入を図るべき
- 比較的支出余力のある**観光客の費用負担力**を交通路線維持の財源として活用すべき
- 交通事業者と観光事業者が連携して**本源需要**を創出すべき

提言からの抜粋(2)

3. 交通サービスの供給側の視点

- **データ**の一元化・オープン化を進めるべき
- **グローバル**な交通アプリ・プラットフォームとの連携を図るべき
- 既存サービスの柔軟化や新たな発想で**多様な選択肢**を提供すべき
- 新たなサービスの導入の壁を乗り越えるための**法制度上の支援**を考えるべき

4. 計画や規制などの政策・制度の視点

- 広域的な移動に対応するために**都道府県**が人材・財政の面から関与すべき
- 行政は交通事業者や観光関係者に**現行法制度で対応可能な事項**を丁寧に説明していくべき